

リヨンセンター UDL/STARMAJ インターンシップ 体験記

氏名	徳田 衣莉
所属	東北大学大学院工学研究科 / 流体科学研究所 内一研究室
指導教員	内一 哲哉 教授
研究課題	電磁非破壊評価による水素曝露したオーステナイト系ステンレス鋼の疲労破壊メカニズムの検討
派遣期間	2019/10/9-2019/10/28
派遣機関	INSA Lyon
受入教員	Prof. Damien Fabregue / Prof. Jean-Yves Buffière

個人旅行や学会等で海外に行ったことは何度もあったが、留学やインターンシップという形で海外に行ったことはなく、様々な体験をすることができた。事前にいろいろと情報は得てはいたものの、研究をしているのが PhD の学生のみで、修士の学生は授業をとるのみというのが新鮮であった。受け入れ先の研究室は、PhD の学生のほか、社会人留学中の日本人の方や、同じ東北大の別専攻の修士学生も滞在しており、また日本に留学していた学生もいたり受け入れ態勢が整っており、快適に過ごすことができた。個々が研究に専念するのはもちろんだが、昼食はお弁当を持参して一緒に食べる、金曜日は昼休みにジョギングに行き、終業前にはビールを飲みながら交流する、など研究室内での交流も積極にしており、よい研究室に滞在させてもらった。受入教員の先生方も進捗や困っていることなど都度確認してくれたため、大変スムーズに研究を進めることができた。3 週間のみ滞りであったため、試験片にトラブルが発生した際再測定する時間がなく、すべてがうまくはいかなかったが、一定の成果は上げられたと感じている。

週末はリヨン市内の観光、フランス国内の様々な場所を観光することができた。ある程度気を付ければ治安も問題ない範囲であったと感じている。大抵の場所では英語が通じるため、英語ができれば問題なく生活ができた。またリヨンの気候は仙台にかなり近く、私の滞在時期は気温に関しても快適な範囲であった。研究もやりやすく、生活もしやすく、インターン先として大変よい場所である。今後もこういった機会を提供していただくと学生のよい経験になると考える。

